

研究テーマ

研究設問 …必ず疑問形にする。

研究の前提 …調査に至る背景

①

②

③

先行研究 …自分のやろうとしていることと関わる点を探す

①

言っていること

批判・足りない点・自分の研究とどうかかわるか

②

③

調査・分析の概要 …5W1Hをはっきりさせる

対象

調査・分析内容

調査・分析方法

結果

調査・分析の結果

研究設問に対する答え

考察

今後の課題 …自分の研究の不完全なところ。つっこまれたくないところ

研究テーマ

研究設問 …必ず疑問形にする。

誰かが持っている発音のコツでほかの人の発音も直せるのか？

研究の前提 …調査に至る背景

- ①日本語教育の発音の指導法は昔からずっと同じ
- ②最近、自分の発音を内省させて発音のコツを作らせる指導法が出てきた
- ③しかし、発音のコツを作ることができない人も多い

先行研究 …自分のやろうとしていることと関わる点を探す

① 小河原（1998）

言っていること

「モデル発音を基にして学習者自身が自分の発音を自己評価しながら自己修正していく発音学習」が重要である

批判・足りない点・自分の研究とどうかかわるか

自分の発音を聞き取ることも大事なのだが、どのように発音しているか、口の中の動きを「感じ取る」ことも大事なのでは？

②

③

調査・分析の概要 …5W1Hをはっきりさせる

対象

韓国語を母語とする日本語学習者・上級・ソウル方言

調査・分析内容

- ① 学習者がどんなコツを持っているかを明らかにする。
- ② 学習者に、自分が発音するときのコツを作ってもらい、それをほかの学習者に使ってもらって、発音を改善することができるかを観察する。

調査・分析方法

学習者を集めて、疑似的に教室を作ってその中でコツを共有してもらう。

調査者はコツの共有と一緒に参加して、どのようなコツが出るかを調べる（参与観察）

結果 …必ず疑問形にする。

調査・分析の結果

- ① 新たなコツを作り出すための刺激
- ② 自身の発音や発音のコツを内省させるための刺激

となることが示唆された。

研究設問に対する答え

誰かが持っている発音のコツでほかの人の発音も直せるのか？

→直せる！！

考察

コツを作るときは専門用語を使わない人が多かったので、音声学の知識がない人でも扱いやすそう。

今後の課題 …自分の研究の不完全なところ。つっこまれたくないところ

調査対象を増やす。

調査を縦断的に行う。（一回きりじゃないの？といわれたいため）